３．看護職員教育システム

１）教育目的・目標

(1)　教育目的

①　看護部の理念に基づき、時代の変化に即応した質の高い看護サービスを提供できる人材を育成する

②　常に能力開発支援を行い、生涯にわたる専門職業人としての成長を支援する

(2)　教育目標

①　患者の生命および人権を尊重し、患者の安全・安楽を考慮し、個々の健康レベルに適した専門性のある質の高い看護を実践することができる

②　病院の理念や役割、経営方針を理解し保健医療チームの一員として、組織における自己の役割と責任を自覚することができる

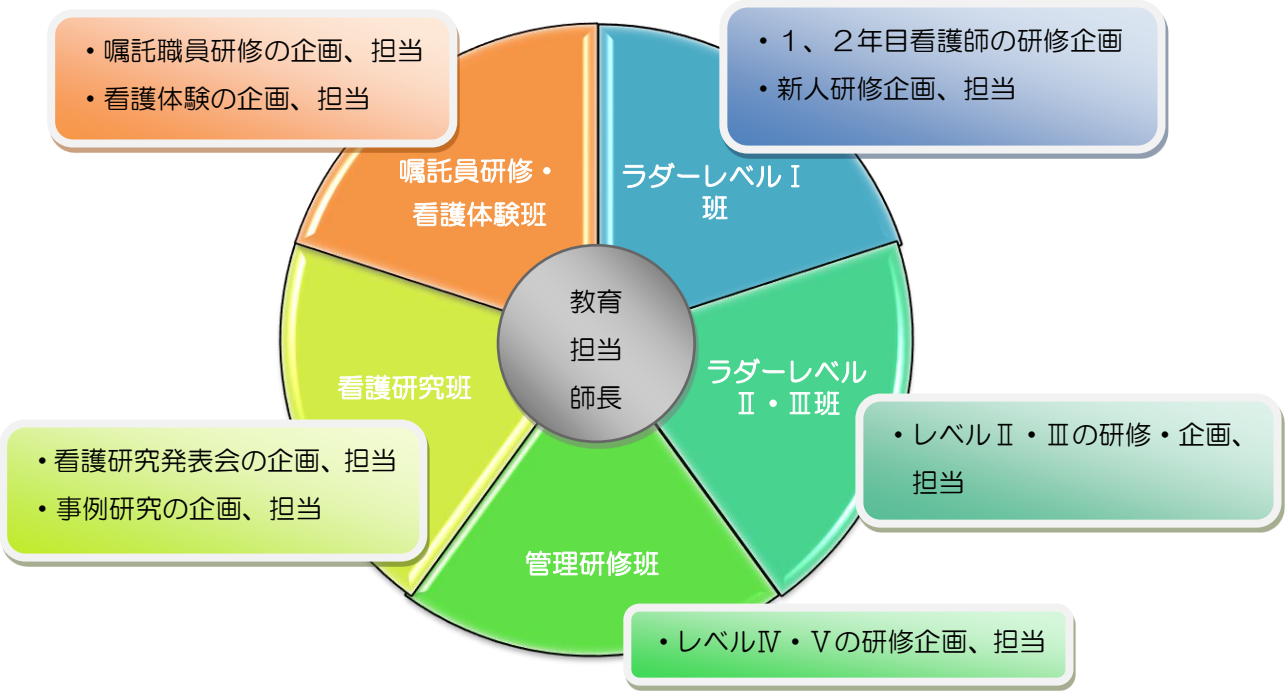
③　専門職業人として目標をもって主体的に学習し、看護実践能力を高め自己成長することができる

④　他部門・他職種・地域と連携し、相互の意思の疎通を図り協働することができる

２）教育支援体制

看護部では教育委員会が様々な教育・研究・研修に関する企画、準備を行い広く看護職員の人材育成、キャリアアップ支援に努める。

教育委員会を５つの班に分けてそれぞれ活動し、さらに全ての教育委員が各所属部署での看護職員の教育に携わる。



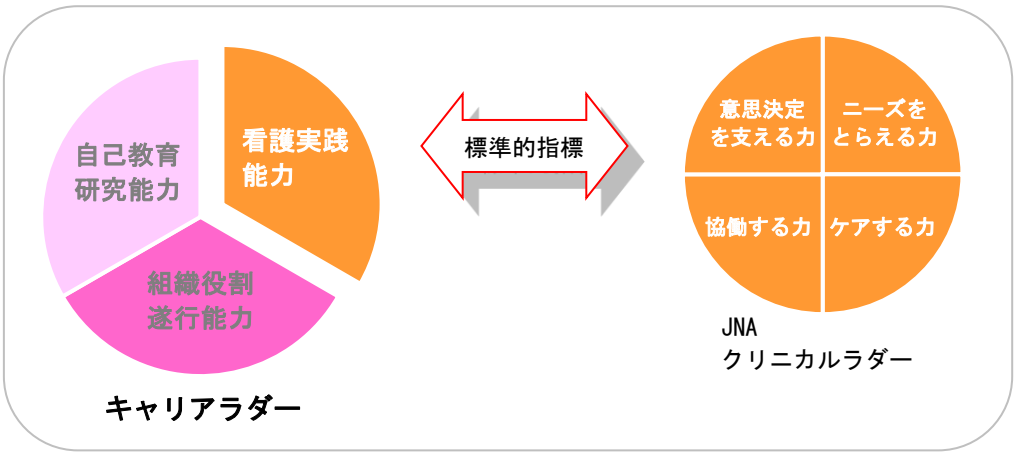
３）大牟田市立病院キャリアラダーシステム

(1)　キャリアラダーとは

看護師の能力開発および個人の目指すキャリア発達を支援するツールです。

(2)　大牟田市立病院キャリアラダーシステムの特徴

当院が習得を目指す『看護実践能力』は、JNA ラダーで示された看護の核となる実践能力を標準指標として活用しています。また、看護実践能力以外に大牟田市立病院の看護職に求める能力を『組織的役割遂行能力』、『自己教育・研究能力』で構成し、キャリアラダーとしています。



キャリア:「看護職の専門的な能力」　クリニカル:「看護実践」　ラダー:「はしご」

キャリアラダーには下記に示すように、３つの能力があり、さらにレベルに合わせⅠ～Ⅴの５段階に分かれる。

＜キャリアラダー　３つの能力＞

① **４つの看護実践能力**

「ニーズをとらえる力」「ケアする力」

「意思決定を支える力」「協働する力」

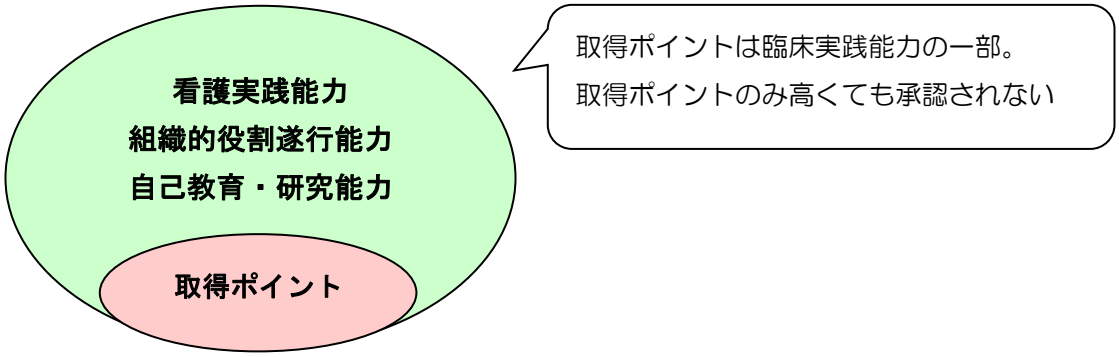
② **組織的役割遂行能力**：組織役割遂行、マネジメント力、人間関係能力

③ **自己教育・研究能力**：研鑽する力、研究する力

各レベルを参考に、自己目標を立案・実施し、自己評価・他者評価・面接評価を行い、その結果をフィードバックし、次年度の目標に繋いでいきます。目標管理と連動はしていませんが、目標管理と共に個人のキャリア・アップや人材育成におおいに活用することができます。キャリアラダーは、進捗状況を自己にて確認し、申請するシステムで自分のペースで学びを進めることができます。

(3)　キャリアラダーが大切にしていること

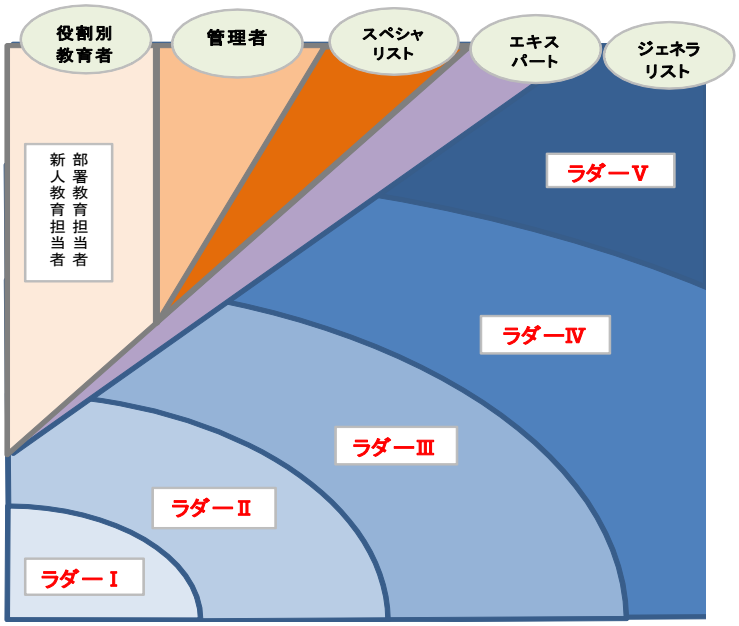
キャリアラダーシステムでは、ポイント取得制を導入していますが、最も大切にしているのはポイント数ではなく「３つの能力」です。下記の各段階における定義等を理解し、その行動・能力に達成できるように各自研鑽をかさねましょう。



(4)　キャリアラダー各段階の定義

	レベルⅠ－①②	レベルⅡ－①②	レベルⅢ－①②	レベルⅣ－①②	レベルⅤ－①②
レベルの定義	指導を受けながらマニュアルに沿って看護実践できる	標準的な看護計画に基づき、自立して看護を実践し、メンバーシップを発揮できる	個別的な看護を実践し、所属組織の目標達成のためにリーダーシップを発揮できる	幅広い視野と予測的判断をもち看護を実践する。組織の目標実現のための環境整備・人材育成を行う	最適な手段を選択しケアの受け手の QOL 向上に貢献する。組織の目標達成だけでなく地域に対しても組織的看護サービスの提供を行う
キーワード	助言 マニュアル	チーム内 自立 メンバーシップ	部署内 リーダーシップ 個別性 後輩育成	看護部内 専門性 人材育成 他部署との協働	病院全体 地域への貢献・連携 創造的リーダーシップ
キャリアの目安	新人	すてきナース 教育者 エキスパート 教育者：実習指導者 看護学校講師	総リーダー 管理者 スペシャリスト	ジェネラリスト	

4）当院看護部におけるキャリアアップ図



この図は、当院看護部におけるキャリアアップのイメージ図です。
自分の『将来なりたい姿』がどこなのか、イメージしましょう。

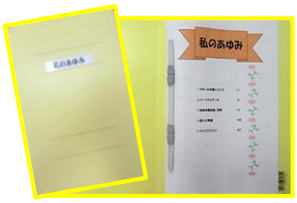
キャリアラダーシステムについての詳細は、院内文書に掲載しています

院内文書→看護部→看護部委員会→６　教育委員会→B　キャリアラダー
→<u>マニュアル・様式・単位表等</u>
〇マニュアル：キャリアラダーの目的
ラダー申請の流れ、飛び級の方法
取得ポイントの点数・計算方法、有効期限
レポートや研修企画書等の書類の取り扱い
課題レポートの書式
e－ラーニング、研修受講時の注意事項　　etc
〇様式：ラダー申請に関する一連の書式
各ラダーレベル別の書式集

※　様式はコピーして使用して下さい。入力してそのまま保存しないようにお願いします。

5）『私のあゆみ』

個々の目標・成果・実績(成長プロセス)を、各自が明記・保管します。
さまざまな経験や学習の記録、自己の経験や学習をマネジメントするためのツールです。
研修受講時には必ず持参するようにしましょう！
ラダー研修受講時は、受付で受講票に印鑑を押しています。



6）キャリアラダー　段階表　□看護協会設定　■当院オリジナル

定義／レベル		能力	看護実践能力								組織役割遂行		教育／研究	
		定義	看護師が論理的な思考と正確な看護技術を基盤に、患者のニーズに応じた看護を臨地で実践する能力 専門的知識を用い、安全安楽に個別的な看護を提供する／役割を遂行するために必要となる人間関係を築き、保持する／看護実践において果たすべき責任と役割								看護サービスの向上と組織目標達成のために求められる役割と責任		看護の質向上に向けて自己研鑽、看護研究、後輩育成に取り組む	
		キーワード	情報収集・緊急度・価値観		看護手順・看護技術・最適なケア		情報共有・チーム・価値観の理解・報告連絡相談・調整・他職種		思いや希望・代弁・意思決定プロセス		業務計画・計画実行・優先順位・リーダーシップ・目標・理念		振り返り・問題意識・学習・研究・専門性・管理	
		レベル	ニーズをとらえる力		ケアする力		協働する力		意思決定を支える力		組織役割遂行		教育／研究	
		目標	[レベル毎の目標]	【行動目標】	[レベル毎の目標]	【行動目標】	[レベル毎の目標]	【行動目標】	[レベル毎の目標]	【行動目標】	[レベル毎の目標]	【行動目標】	[レベル毎の目標]	【行動目標】
Ⅴ	②	より複雑な状況において、患者にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する	患者や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる	□患者や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する	□複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる	患者の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす	□関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる □目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる	□法的および文化的配慮など多方面から患者や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる	自施設の目標達成に向けて組織改革に必要な建設的な意見を提案でき、具体策を主体的に実施する	■社会・看護の動向を捉え、組織の理念・目標を念頭に、成果を出すための看護管理を実践できる	率先して研鑽し、個別性のある人材育成の実践や教育的役割ができる	■看護部の院内教育プログラム等の企画運営方針の決定 ■キャリア開発、看護部全般の専門性向上にむけた環境整備ができる
	①			□複雑な状況を把握し、患者を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる		□患者の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見（看護および看護以外の分野）を動員し、ケアを実践・評価・追求できる		□複雑な状況（場）の中で見えにくくなっている患者のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる □多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる		□適切な資源を積極的に活用し、患者や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる		■組織の現状を客観的に分析し、あらゆる場面でチーム医療を意識した看護活動を推進することができる		■看護管理能力を高めるための自己研鑽 ■キャリア開発・看護部全般の専門性向上にむけた教育体制の構築ができる
Ⅳ	②	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	患者や状況(場)を統合しニーズをとらえる	□意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	□幅広い視野で患者をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる	患者を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	□多職種間の連携が機能するように調整できる □多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	患者や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる		自施設の目標達成に向けて主体的に実践する	■部署における課題を明確にし、目標を示しながら管理行動がとれる ■部署においてアサーティブな関わりができ総合的なリーダーシップを発揮できる	自己のキャリア開発に関して目指す方向に主体的に研究的に取り組み、後輩のロールモデルとなるこ	■部署の専門性の向上のための自己研鑽とキャリア開発に向けたスタッフへの働きかけ、研究・指導ができる □後輩のロールモデルとなり学習を支援する
	①			□予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる		□患者の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる		□患者がおかれている状況（場）を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる		□患者や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる		■役割を担うスタッフの支援ができる ■部署の目標設定に参画でき、目標達成に向けリーダーシップを発揮できる		■院内教育プログラムにおいて、実践指導の一部企画、運営ができる ■自己の研究テーマに取り組むことができる
Ⅲ	②	患者に合う個別的な看護を実践する	患者や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	□得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	患者や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	□患者の個別性をとらえ、看護実践に反映ができる	患者やその関係者、多職種と連携ができる	□積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる ■入院～退院後まで見据えて、患者・家族、地域との関係を調整することができる	患者や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	□患者や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	所属部署の目標達成に向けて主体的に実践する	■看護業務における経済的・効果的側面から意見を述べ改善の推進者となることができる ■率先して他部署との連携・調整を図ることができる	自己の学習活動に積極的に取り組むとともに、新人や看護学生に対する指導的な役割を実践することができる	■院内・院外の教育プログラム（研修会）に積極的に参加し、その内容を部署内に伝達することができる ■看護研究やケースレポートを通して、自己の看護実践や専門看護を深めることができる
	①			□患者に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる		□患者の個別性を合わせて、適切なケアを実践できる □患者の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる		□患者の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる □患者とケアについて意見交換できる		□患者や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる □患者や周囲の人々の意向の違いが理解できる		■部署の目標達成に向けて主体的なリーダーシップを発揮し、その役割と責任を果たすことができる ■看護業務における経済的・効果的側面から意見を述べることができる		■臨床指導者、臨床講師の役割を果たし院内研修の企画・運営に参加できる □看護実践者として後輩に支援的役割を果たせている
Ⅱ	②	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	患者や状況(場)のニーズを自らとらえる	□得られた情報をもとに、患者の全体像としての課題をとらえることができる	患者や状況(場)に応じた看護を実践する	□患者の状況に応じた援助ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	□患者を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる □関係者と密にコミュニケーションを取ることができる □看護の展開に必要な関係者を特定できる □看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	患者や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	□確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	組織の一員として役割を理解し、所属部署の目標を意識して行動する	■チームリーダーとして円滑に業務を遂行できる ■部署の目標に向けて、自己の役割と責任を果たすことができる	自己の課題を明確化し、達成に向けた学習活動を展開することができる	■看護実践を通してケースレポートをまとめることができる ■部署におけるさまざまな看護実践について、後輩、看護学生の指導ができる
	①			□自立して患者に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる		□患者の個別性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる □患者に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる		□患者やその家族との関係を良好に築くことができる ■部署においてスタッフ間の信頼関係を築くことができる		□患者や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる		■メンバーシップを理解し、状況に応じて適切な対応ができる ■1日の業務計画を効率的に立案し実践することができる		■学習課題を明確にし、院内教育プログラム（研修会）に積極的に参加出来る
Ⅰ	②	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	助言を得て患者や状況(場)のニーズをとらえる	□患者の状況から緊急度をとらえることができる	助言を得ながら、安全な看護を実践する	□看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる	関係者と情報共有ができる	□患者を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる □連絡・報告・相談ができる	患者や周囲の人々の意向を知る	■助言を受けながら患者や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	自施設の理念と使命を理解し、組織の一員としての自覚を持って行動する	■助言を受けながら、優先順位を考えて業務を実行できる	自己の看護を振り返れる日常の看護実践に疑問や問題意識を持てる学習できる	■看護過程を振り返り、課題を明確にし、主体的に学習できる
	①			□助言を受けながら患者に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる		□指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる □指導を受けながら、患者に基本的援助ができる		□助言を受けながら患者を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる □助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる □助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる		■助言を受けながら患者や周囲の人々の思いや考えることができる		□地域社規における自施設の役割・機能を理解する □自己の業務管理等、社会人・組織人としてのルールを身につける ■助言を受けながら、1日の業務計画を立案することができる ■助言を受けながら、業務を実行することができる		■助言を受けながら、自己の看護を振り返り不足分を学習できる ■日常の看護実践の中で疑問や問題点について学習できる